

Kさん（S小学校）

子どもたちと平和について考えよう

1. 取り組んできたこと

- (1) 今日は何の日？
- (2) 東京修学旅行で「第5福竜丸」展示館を見学
- (3) 夏休みの課題
- (4) 平和への取り組みを報告・『平和の誓い』を読んだ感想

2. これから取り組むこと（取り組んでいること）

- (1) 戦争体験者からの聞き書き（実際に体験を聞く）
- (2) 全校合唱で音楽物語『一つの花』に関わって
- (3) 卒業に向けて
- (4) 社会科授業

3. 教室に平和教育を意識した本をおく

◇はじめに

「戦争はだめ」とか、「戦争はいやだ」と感じている、知っている子どもたちと、「どうして戦争をするの？」とか、「平和ってどういうこと？」ということについて考えるきっかけを与えたり、いっしょに考えたりしたいと思い、取り組んでみた（取り組んでみたい）ことの報告である。

1. 取り組んできたこと

- (1) 今日は何の日？

『平和学習資料12ヶ月』（東京民研平和教育専門委員会編・民衆社）を参考に、月に1回、「今日はこんな日」という紹介をする。（朝の会、道徳、社会科で15分くらい）

- ① 4月「なぜ平和を学ぶのか」
- ② 5月「メーデー」（5/1）「憲法記念日」（5/3）「子どもの日」（5/5）
- ③ 6月「沖縄戦」（6/23）
ファックス資料 新わくわく全教科篇 学習カード小学5年（民衆社）
- ④ 7, 8月「世界最初の核実験」「広島・長崎に原爆投下」（8/6, 9）
「日本の敗戦」（8/15）「学童集団疎開」
- ⑤ 9月「パパ ママ バイバイ」（横浜米軍機墜落事件）
- ⑥ 10月「特攻隊出撃」「『教育勅語』発布」

(2) 修学旅行で「第5福竜丸」展示館を見学

①見学先に決まるまで

佐久地方の多くの小学校は、東京方面の修学旅行である。前年度の秋頃から旅行者・コース選定などが5学年担任を中心に行われる。国会議事堂・東京タワーなど定番の見学先が決まり、あとは子どもたちの希望や担任の思いなどで決定されることが多い。2日目は東京ディズニーランド+葛西臨海水族館というパターンも多い。

そこで、修学旅行でしか行く機会がないかもしれない「第5福竜丸」展示館を推薦し、学年主任の同意も得られ、見学先に決定した。

(所在地/東京都江東区夢の島3-2 電話03-3521-8494)

②事前学習

- ・子どもたちは、インターネットを通じて資料を集める。
- ・担任は絵本『トビウオのぼうやはびょうきです』『わすれないで第5福竜丸』などを紹介したり、読み聞かせをしたりする。

③事後学習

- ・国語の俳句学習とも関連させ、見学先での俳句を作る。

○修学旅行の感動を俳句(五・七・五)で表そう

10, 第5福竜丸展示館で

- ・死の灰で みんなこわがる 本当に
- ・話聞き 大きな船を 見つけたよ
- ・水爆の 被害にあった 船がある
- ・水爆で 島のかげらが 降ってきた
- ・苦しんだ 水素爆弾 人々が
- ・見たときは 船の大きさ びっくりです
- ・話聞き 水爆威力に 理解不能

○先生たちからの修学旅行クイズ2008(しおりといっしょにメモの代わりに)

34, 第5福竜丸が漁をしていた魚は何? [マグロ]

35, 第5福竜丸が水爆実験にまきこまれたのは、1954年何月何日?

[3月1日]

36, 第5福竜丸を見学して「すごい」と思ったことは? ~子どものメモより~

- ①水素爆弾の迫力(爆発は太陽ぐらいの明るさ・大きさ、死の灰)
- ②船の大きさ(船を運んできたこと)
- ③平和を願っているいろいろな人が千羽鶴を折っていたこと

(3) 夏休みの課題

8/6、8/9、8/15のことを意識した課題を出す。子どもたちはインターネットで調べたり、図書館の本で調べたりしたことを新聞形式でまとめる。自分の祖父

母から取材した新聞づくりに数人が取り組む。

～子どもたちに夏休み前に配布したプリントより～

自分の目で確かめ、耳で聞いて、調べてみよう。そして、社会科新聞にまとめよう。

(1) 歴史や地域に関係すること

例えば、近くにはこんなところがあるよ

- ・北沢川大石棒・・・佐久穂町
- ・東馬流（ひがしまながし）秩父事件戦跡・・・小海町
- ・大深山（おおみやま）遺跡・・・川上村
- ・栃原岩陰（とちはらいわかげ）遺跡・・・北相木村
- ・秩父事件戦跡・・・佐久穂町
- ・信濃国分寺資料館・・・上田市
- ・北相木村考古博物館・・・北相木村
- ・五郎兵衛記念館・・・佐久市
- ・五稜郭御台所・・・佐久市
- ・旧中込学校・・・佐久市
- ・南牧村歴史民俗資料館・・・南牧村 など

(2) 平和に関係すること

- ・小池勇助さんについて・・・佐久市
- ・8月6日（ヒロシマ）のこと
- ・8月9日（ナガサキ）のこと
- ・8月15日（終戦の日）のこと
- ・不戦の像・・・南相木村
- ・人間魚雷「回天」の模型（貞祥寺）・・・佐久市
- ・ビデオを見たりや本を読んだりしたこと
- ・おじいちゃんやおばあちゃんから戦争のころの話聞いてみて など

※子どもたちは、上記から選択して取り組む。

(4) 平和への取り組みを報告

①原水爆禁止世界大会に参加してきたことを学級通信を通して子どもたちや保護者に伝える。

～2008. 8. 19の学級通信より～

原水爆禁止2008年世界大会（広島）8/4～8/6

(1) 開会集会や閉会集会には、日本国内外から約7000人の人が集まり、平和を願っている人々が各地でいろいろな取り組みをしていることがわかりました。広島市長さんや被爆者の方のあいさつや海外からの報告もあり、世界大会を感じる事ができました。

(2) 平和記念公園内の原爆遺跡・碑めぐり

①公園内にある50数カ所を自分の足で歩き、目で見ました。広島市民だけでなく、強制的に連れてこられた人（外国人、学徒動員など）も含めて、本当に多くの方が

犠牲になったことがわかります。

②『広島平和記念資料館』『国立広島原爆死没者追悼平和祈念館』の見学

外国からの見学者、中・高校生の団体が多かったです。忘れてはいけない、知って
いなければならないことがたくさんあります。

(3) 分科会「学習のひろば ヒロシマ・ナガサキ・ビキニと原水爆禁止運動」では、

安齋育郎さん（立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長）の話聞くことができました。安齋さんは、「世界一受けたい授業」にも出演したことがあります。

原爆投下の目的地は①京都②広島③小倉④新潟だったということです。どうして、
広島と長崎に原爆が投下されたかというと、

① 京都・・・目標物は国鉄ターンテーブルの○

「京都には日本を代表する建物が多いから避けた」のではなく、「古都（天皇が
すんでいた）・京都に原爆を投下することは、戦争が終わり占領後、アメリカに
対する日本人の深い憎しみを植えつける」ことを避けるためというアメリカの都
合で候補から外され、広島に決まったそうです。

② 広島・・・目標物は相生橋の T

人々が動き出す 8 : 0 0 ごろがいいだろうということで、8 : 1 5 に投下されま
した。1 0 0 0 0 m から投下して 6 0 0 m ぐらいで爆発するのが最大威力を発揮
するそうです。落下している間（約 4 0 秒）に B 2 9 はできるだけ離れ、被爆
しません。B 2 9 は「エノラ・ゲイ」と呼ばれていました。これはパイロットの
母親の名前だそうです。

③小倉・・・天候悪く、④新潟は遠いので、長崎へ向かい、多くの人々が動き出す

8 : 0 0 ごろではなく、投下が 1 1 : 0 2 になってしまったそうです。

※アメリカには 3 発の原爆があり、1 発は実験済み、あと 2 発は人体実験用で使わ
れたようです。巨額の予算がかかっており、それぞれの研究グループ（ウラン型・
プルトニウム型）の威信もかかっていたので、広島と長崎に投下されました。

(4) 広島市平和記念式典（8 / 6 8 : 0 0 ~ 8 : 4 5）に参加しました。

セミの鳴き声の中、テレビ中継されているものを見ることと自分が実際に参加する
ことの違いを感じることができます。子ども代表のあいさつは、感動が伝わってき
ました。修学旅行で第 5 福竜丸資料館を見学した皆さんはどのように感じるでしょ
うか。被爆者は高齢化が進みます。今できること、やらなければならないことを考
えたいです。8 : 1 5 に黙祷をしました。セミの声だけになります。扇風機もエア
コンもない時代の想像を絶する熱さを思うと涙が出てきます。広島市長さんのあい
さつもすばらしいので、内閣総理大臣のあいさつは、情けなく感じます。

◇ 8 / 1 5 の前後には新聞やテレビなどでも戦後 6 3 年に関係したことがありました。

日本は大きな被害を受けましたが、大きな加害の事実もあります。そのことも知らな
いといけません。

②『平和の誓い』を紹介し、同じ 6 年生としてどんなことを思ったか感想を書く。

～子どもたちの感想より～

・「平和の誓い」を聞いていたら、核兵器などと簡単に言っていたけど、本当はすごく大

切なことなんだと思いました。

- ・読んでみて、戦争はとてもこわいものだと思います。原爆でたくさんの人々が苦しんでいたのだと思いました。その時、最後まで生きてくれた人たちがいたから、今の私がいるんだな～と思いました。私は一人一人の命の大切さを感じました。今はとても平和で昔とちがってたくさんのものであったので、私たちはとても幸せだと思いました。これから私たちにできることがあったらしていきたいです。
- ・「平和の誓い」を読んで、6年生が書くとは思えないほど、すごい文だと思います。いつまでもヒロシマのことを伝えようとしている気持ちが伝わってきます。一年一年過ぎるごとに実際に原爆のこわさを体験した人は減っていくけれど、何十年たっても原爆について伝えられて欲しいです。

2, これから取り組むこと（取り組んでいること）

（1）戦争体験者からの聞き書き（実際に体験を聞く）

①学級懇談会で戦争体験を子どもたち話していただける方がいないか、保護者に協力を依頼した。

～戦争の聞き書きを進めるために～

夏休みの新聞づくりを発展させたいと思います。

国語では「平和のとりでを築く」、社会科では、「戦争の時代」のことを学びます。

11月1日（土）の学校公開では、全校合唱で「一つの花」に取り組みます。

平和のことをともに考え合う機会にしたいと思います。

○保護者の方へ

子どもたちに、戦争体験の聞き書きを課題にしました。身近なところにいらっしゃったら、子どもたちに情報を提供していただければ、ありがたいです。ご両親や祖父母の方が健在であったら、事前に連絡をしておいていただくと、子どもたちが取材するのに大変助かりますので、よろしく願います。子どもさんといっしょに、お話を取材されてもかまいません。

子どもたちにお話をしていただける方がいましたら、ぜひお願いしたいので、担任までお知らせください。ご近所の方でもご紹介ください。

○子どもたちへ

最初に身近なところにいる方で、戦争体験をされた方がいらっしゃるかがす。家の人や近所の人に聞く。祖父母が近くにいたら、電話などで確かめておく。あらかじめ取材に行く前に、事前に訪ねて、お聞きする内容をお手紙やメモの形にしてお渡ししておく。

このようなお話のできる方は、70才（戦争が終わった年、1945（昭和20）年7才）以上の方です。空襲や原爆や兵隊の体験の話が聞けたらすごいです。

②児童の聞き取り用に用意した学習カード

～戦争のことを聞いてみよう～

①いつ、どこで、生まれましたか？

②その時、家族は何人でしたか？

- ③その後、ご兄弟は何人になりましたか？
 - ④家族の仕事は、どんなことをしていましたか？
 - ⑤小学校に入学される前、心に強く残る思い出があれば、教えてください。
(幸せだった家族のこと、時代のこと、今なつかしく鮮やかに残っていることなど)
 - ⑥何年に、何という小学校に入学しましたか？
 - ⑦その時代は、戦争前でどんな暮らしをしていましたか？
 - ⑧学校では、どんな教育が行われていましたか？
 - ⑨1941（昭和16）年12月8日太平洋戦争開始の時は、何才でしたか？
そのニュースをどのように受け止めましたか？
 - ⑩1945（昭和20）年8月15日終戦の時は、何才でしたか？
そのニュースをどのように受けとめましたか？
- ※孫（子どもたち）に一番語りたいことはどんなことですか。

(2) 全校合唱で音楽物語『一つの花』に関わって

①学校公開の授業で3人の方のお話（概要）と感想

本校では、地域の方に学校をもっと知ってもらおうと11月に「学校公開」日が設けられ、全校児童による合唱組曲やオペレッタなどの発表がある。今年度取り組むのは『一つの花』（原作／今西祐行 脚本・作詞／戎博志 作曲／平島勉 教育芸術社 上演時間約13分）である。音楽専科を中心に選曲されるが、平和を願うということだけの理由ではない。ビデオ（財団法人長野県教育会館寄贈：全小学校配布）があるので、全校が見ることで平和を意識した取り組みにつなげたい。

（5年前は合唱構成『ぞうれっしゃがやってきた』にも取り組んだ。）

～11月1日（土）学校公開で聞きたいこと～ 子どもたちの事前の質問

- ・戦争中の生活で特に苦しかったこと
- ・毎日の生活で楽しみしていたことは何か。（思い出に残っていることは何か）
- ・戦争中、どんな遊びをしていたか。
- ・戦争中、食料はどうしたか。（何を食べていたか、3食食べられたのか、配給はあったのか）
- ・佐久地域にも空襲はあったのか。（いつごろか）どこに避難したのか。飛行機にみつからないようにどんな工夫をしたのか。
- ・戦争が終わったとき、どんな気持ちだったか。
- ・戦争前と戦争中の授業で変わったことは何か。（休み時間に外であそんではいけないということはあったのか）
- ・学校で空襲に備えた工夫とはどんなことか。（防空頭巾にするとか、どこかに隠れたか。家の中の様子はどうだったか。）
- ・戦争中、どんな勉強をしたのか。教科書に書かれていたことは、全部が「戦争中」のことだったのか。
- ・アメリカ人はどんな存在だったのか。
- ・戦争中の町の風景は？それを見てどう思ったか。

- ・戦争中、一番困ったことは何か。（終わった後、一番困ったことは何か）
- ・お父さんは戦争に行きましたか。（家族で戦争に行った人はいますか）
- ・一番怖いと思ったことは何か。
- ・戦争中、「国のために死ぬことは立派だ」と教えられていて、子どもだったころ、どう思ったか。
- ・戦争中、授業は女性がやっていたのか。男性がやっていたのか。
- ・どんな服装をしていたか。

～学校公開授業での話～ Bさんからの原稿や担任の概要メモから

■Aさん（男性・昭和12年7月生まれ）

○戦争中のくらしの様子・・・子どもたちからの事前の質問に答えてもらう

○姉の話

昭和20年8月8日夜11：00ごろ前日からのカゼで熱が出て亡くなる。

警戒警報が出ていて、電気を消せとなった。「熱い、熱い」と死んでいった。

父親は、消防の役員で電気を消させる見回りで、「うちから不祥事がでたら大変だ。

1人の病人より、村を守る」と死に際には間に合わず。

戦争ほどひどい世の中はない。物はなくても生きられる。人の命と命の取りっくらだ。

戦争は絶対にあってはならない。あと1週間で戦争が終わるというときだった。

■Bさん（女性）

今日は、戦争の体験ということについてお話をと言われ、私にできるのかしらと思いつながら、ここに立たせてもらいました。私が、小学校3年生12月8日に戦争が始まり、皆さんと同じ6年生の8月15日に戦争が終わった。先生が「今日、日本は戦争に負けた、敵の飛行機も来なくなる、電気も暗くしなくも」と、でもアメリカの兵隊が来たらどうなるのか、子ども心に不安でいっぱいだったが、それでもどうしてと先生に聞けなかった。昨日まで「戦争に負ければ子どもは殺される、アメリカ人は鬼だ」と聞かされ、「勝つまではぜいたくは言わない、皆で頑張るのだ、敵が来たら竹槍で戦うのだ」と、長刀の稽古をしてしたので、

6年生の時の勉強は、教科書は新聞紙のような紙に印刷したのを自分たちで折って使い、教室は疎開をしてきた人たちとで私たちの組は68名、身動きがとれないほどだった、勉強は1日1時間か2時間であとは畑仕事、秋からは薪運び、炭運び、炭は重いので、2、3人で交代で背負って、一里くらいある山から、それから1年後、アメリカの兵隊さん学校に長刀や木刀を取りに来ました。学校の中を土足で上がって、私たちはアメリカ人って大きくて、目は青く、髪は赤く、ほんとに鬼かと思った。

でも、あのころの子ども、よく働いた、泣き言も言わず、勝つまでは勝つまではと、

戦争は大人から子どもまで皆がつらく、悲しい思いをしなくてはならない、食べるものも着る物もない、でも人を思いやる気持ちはあったと思うが、

こんなつらい思いは、子どもや孫たちにはさせたくない、戦争のない平和な日が続くことを願ってやみません。

■Cさん（男性）

○亡くなった2人の兄の話

一人は中国満州。夜の歩兵監視当番で、 -25°C ～ -30°C カゼで。

もう一人は南シナ海。海、他国なので、移動でわからなくなることもあるので、行く前に、まず、形見を残した。髪の毛、つめが帰ってきた。

○大日向村（旧佐久町大日方・現佐久穂町大日向）の話

満州へ移民して帰ってきた。住むところも食べ物もなく、軽井沢の大日向へ分村した。

～子どもたちの感想より～

・戦争中のお話はそんなに聞けるものではないので、聞いて初めて知ったことがたくさんありました。一番おどろいたのが、戦争で亡くなり、遺骨で帰ってくると、中に入っていたのが、つめとか髪の毛ということです。私は、骨で帰ってくるのかと思っていたので、国のために行きたくない戦争に行つて、帰ってくるのがつめとか髪の毛だけというのがあまりにもひどすぎると思いました。あと、これを聞いて戦争のざんこくさももっと分かりました。一番いやだと思ったのは、Aさんのお姉さんが「熱い、熱い」と言って亡くなっていったことです。そういう話は本とかでは見たことはあっても、実際に聞いたことがなく、そんなことがたくさんあっていやだと思いました。戦争時代の話がくわしく聞けてよかったです。

・戦争の話聞いて、なべやおかまが武器として持って行かれてしまうということを初めて知りました。ほかにも、お米とかはあまり食べられなかったり、防空ずきんを持って学校へ行ったり、夜電気がつけられなかったりしたことが知れてよかったです。とても戦争はつらくて、食べる物がなくて大変だったということを改めて感じました。今は食べる物はあるし、いろんな物があって便利になったけど、物は大切にしなきゃな～と思いました。今まで戦争のことは、教科書とか資料集とかでしか写真を見たり、本を読んだりしかしなかったけど、戦争中の生活を体験した人に話をしてもらって、戦争のことがよくわかったのでよかったです。

②国語教材「平和のとりでを築く」

佐久地方で採用されている国語教科書は光村図書である。

平和に関係する文学教材は、3年「ちいちゃんのかげおくり」（あまんきみこ）4年「一つの花」（今西祐行）がある。6年「平和のとりでを築く」は説明文で、自分で調べて、自分の考えを発信するという教材になっている。新聞形式でまとめる、模造紙にまとめる、手紙を書くなどの方法で発信しようと準備を進めている。

社会科（光村図書）の歴史学習では、江戸時代までの学習を計画的に進めることで、太平洋戦争などの学習の時期と合わせることができる。

（3）卒業に向けて

・社会科憲法学習の発展として、日本国憲法前文か第9条を暗記して卒業してほしい。

『新 だれでもできる学力づくり 6年生』（「だれでもできる学力づくり」編集委員会編 子どもの未来社）には、日本国憲法前文の視写・音読ができるプリント資料がある。

(4) 社会科授業

①『日本の戦争の歴史』（板倉聖宣・重弘忠晴 仮説社）を使っての授業と感想

～日本の戦争の歴史（P10～P39 日清・日露戦争まで）の感想～

- 日本は、日清戦争に勝って、日露戦争にも勝って、とてもすごいと思った。日清戦争も日露戦争も日本ではない国の領土でやったので、日本に被害がなくてよかったです。
- 日本はいろいろな国と戦争をしていたなんて初めて知りました。
- 日本は遅れた分、無茶して取り返そうとして、いろんな国と戦争をして、別に遅れてもいいと思いました。
- 戦争を相手国でも日本でもないところであるなんてことがあったことがびっくりした。
- 日本の領土でもなく、ロシアの領土でもないところでやったのは、おかしいかな？と思いました。
- 正露丸、戦争にからんでいて、びっくりしました。
- こんな戦争があったということがあって、なんで、こんな戦争をするんだらうと思った。

～日本の戦争の歴史（P40～P48 第1次世界大戦まで）の感想～

- やっぱり日本は戦争をたくさんやっている。
- 第一次世界大戦とか世界で戦争をすると死んでしまう人もいっぱいいると思いました。
- 日露戦争だけでやめればよかったのにと考えた。
- よくそんなに戦争ができると思いました。
- 日本は、なぜこんなにも戦争をするんだらうと思いました。
- 日清戦争や日露戦争でかなり認められたのに、こんなに戦争をしなくてもいいと思う。
- 日本は戦争しすぎです。
- 第一次世界大戦でも日本で戦争をしていないのは、びっくりです。
- こんなに他の国と戦争をして、第一次世界大戦があって、次に第二次世界大戦というのがある、関係ないのに戦争に巻き込まれた人がすごくかわいそうだと思います。
- 戦争をやめれば被害が少なかったと思いました。
- 中国と最後まで戦争をしてなかったこと（宣戦布告をしていない）を初めて知りました。
- 日本はいろんな国と戦争をして、そんなに戦争をして大丈夫かなーと思いました。

～日本の戦争の歴史（全体を通して）の感想～

- いろいろな国の戦争がわかったし、勉強になってよかったです。
- 日本は第二次世界大戦のときは、その他の国をふくめて合計51カ国と戦争をして、国民はどんな気持ちだったんだらうと思いました。戦争をやっている、人がたくさん傷付くし、戦争をやめて平和になってほしいと思っていたと思います。日本は今までで本当にたくさんの戦争をしてきたんだなーと思いました。
- 最初から最後まで日本はすごいいろんな国と戦争をして、いろんな国を敵に回してまで何をしていたんだらうなーと思いました。問題とかいっぱいあってむずかしいところもいっぱいあったけど、いろいろなことが知れたのでよかったです！
- 日本と戦争した国は51カ国もあって、死者が太平洋戦争だけでも240万人もいて、どうしてこんなに死者がでてるのに戦争をしていたのかなーと思いました。やめれば死者があまりでなかったと思いました。

- いろいろな戦争の名前も知ったし、何年に何があったのかなどを知れてよかったです。文を読みながら、想像も少しできてよかったです。戦争を実際に見たことはないけど、読んでいて、戦争って本当にこわいんだなーと思いました。
- 日本の戦争の歴史もりっぱに作り上げられていて残念です。
- 日本はたくさんの国と戦争をしたとわかりました。私は戦争をやっているときに生まれてこなくて幸せなんだなーと思いました。たくさんの日本人などが命を落とし、どうして戦争なのか、強いことをアピールするためなのか、どうして命を落とすのが当たり前なのか、戦争をしていてなるべく敵を殺すためなのか、おかしいと思いました。
- 日本はいっぱい戦争をやっているやり過ぎだと思いました。もっと国民のことを考えてほしいと思いました。
- 日本は戦争をして、ずるいことまでして勝たかったんだなーと思いました。
- 日本とドイツとイタリア VS 51カ国で戦争をしたというのが、51カ国で戦争したのもずるいし、宣戦布告をしないでたたかったのもずるいと思いました。そして、一番戦没者がいたのはフィリピンで戦没者は合わせて200万人ぐらいの人が亡くなってしまいました。これからはずっと平和な世界でいてほしいです。
- 日本はズルをしていたから、51カ国と戦っていても仕方ない。

②学習プリントで復習をする。

『イメージマップで楽しく学べる！社会習熟プリント 小学6年生』

(社会科を楽しくする会著 清風堂書店出版部)

3. 教室に平和教育を意識した本をおく

書名	作者・編者名	出版社
ももの里	毛利まさみち	汐文社
雲のむこうに	毛利まさみち	汐文社
おさんぎつね	毛利まさみち	農文協
井上ひさしの子どもにつたえる日本国憲法	井上ひさし	講談社
イマジン9 想像してごらん戦争のない世界を		合同出版
全国お郷ことばで憲法9条		合同出版
世界がもし100人の村だったら	池田香代子	マガジンハウス
やさしい言葉で日本国憲法	池田香代子	マガジンハウス
戦争のつくりかた	リボンプロジェクト	マガジンハウス
普通の国になりましょう	C・ダグラス・スミス	マガジンハウス
「戦争漫画」傑作選Ⅱ	手塚治虫	祥伝社新書
夕風の街 桜の国	こうの史代	双葉文庫
憲法？KENPOU	金子勝・木村孝子	本の泉社
憲法九条を世界遺産に	太田光・中沢新一	集英社新書
僕らの街にも戦争があった	長野県歴史教育者	銀河書房
長野県の戦争遺跡	協議会	
原爆入門写真詩集		労働教育

<p>たった一発の原爆でヒロシマ20万人 ナガサキ10万人が死んだ</p> <p>フィールドワーク第五福竜丸展示館 わすれないでー第五福竜丸ものがたりー トビウオのぼうやはびょうきです つるののって ガラスのうさぎ ピカドン</p> <p>だれも知らなかった子どもたちの原爆体験記 アンネの日記 永井隆 平和を祈り、愛に生きた医師 まっ黒なおべんとう しあわせに生きるための道具 えほん 日本国憲法</p>	<p>第五福竜丸平和協会 赤坂三好 いぬいとみこ ミホ・シボ 高田敏子</p> <p>アンネ・フランク 中井俊己 児玉辰春 野村まり子</p>	<p>センター 平和文化 金の星社 金の星社 金の星社 金の星社 講談社 文藝春秋 童心社 新日本出版社 明石書店</p>
---	---	---

など

◇おわりに

思いつきで取り組んでいることが多いが、自分の知ったことがあれば、できるだけ伝えていきたい。さらに、年間計画ができるとよいと思う。

子どもたちには「かわいそう」「そういうことがあったんだ」だけで終わるのではなく、「自分にはどんなことができるのだろう」と考えてほしい。また、日本の戦争被害だけでなく、加害の事実も知っていく必要もある。今後、中学・高校と進んでいく子どもたちであるが、自分の命を大切にし、一生懸命生きていってくれることを願っている。中学の英語教科書には「オキナワ」「地雷」「サダコ」などの教材文もあり、平和教育に取り組む実践がある。数校ではあるが広島への修学旅行も計画されている。高校の修学旅行では沖縄に行く学校が多い。事前・事後学習で平和学習に取り組み、文化祭などで発表する機会も多く見られる。「そういえば、小学校のとき、あんなことを学習したなあ。」と日常的にいろいろな種をまいておきたい。

侵略戦争美化の動きもある中で、学力テストなどによる点数には表れない部分を大切にし、きちんとした判断のできる子どもたちを育てていきたい。